

## 科学情報発信セミナーⅡ 講義(1月17日実施分)報告

2月15日

報告者 梅田早希

平成20年1月17日(木)科学情報発信セミナーⅡの講義を実施しました。今回は、神戸大学発達科学部人間環境学科の伊藤真之先生をお招きし、先生が実践しておられるサイエンスカフェや神戸大学ヒューマンコミュニティ創生センターで行われているプロジェクト「市民の科学に対する大学の支援に関する実践的研究」についてご紹介頂きました。

開催日時 平成20年1月17日(木) 10:40~12:10  
場所 奈良女子大学 数学第3セミナー室 (新B棟4階)  
題目 「市民の科学」プロジェクトとサイエンスカフェ神戸  
講師 伊藤真之先生

### 講義内容:

神戸大学大学院 総合人間科学研究科に設置されたヒューマン・コミュニティ創生研究センターでは、研究プロジェクトとして「市民の科学に対する大学支援に関する実践的研究」に取り組んでいます。講演では先ず、先生がされている研究の簡単な紹介があった後、背景、プロジェクトの趣旨、プロジェクトの展開の考え方、現状、サイエンスカフェ神戸、「市民の科学」と「継続的な開発のための教育」等のお話がありました。

・背景:市民や環境問題に積極的に関わろうとする学生が集まる大学の中の状況で、地域貢献や社会と交流・連携をしながらコミュニティ創りを目指す実践的研究を行う、ヒューマンコミュニティ創成研究センター(HCセンター)の設立。環境問題の解決のための市民参画の重要性に反して、市民の科学技術に対する興味・関心の低下している社会的背景がある。市民に科学技術の楽しさを広め、身近に感じさせるためのアプローチが必要。

・趣旨、展開と考え方:市民の科学技術に関わる問題の調査・研究力を高めてゆくこと(パワーエンターテイメント)が大きな意味を持つ。

・現状・サイエンスカフェ神戸:サイエンスカフェとは、科学者と市民が珈琲や酒を飲みながら科学技術などの話題について自由に語り合う科学技術コミュニケーションの新しい形である。双方向的なコミュニケーションの場であることが重要で、多様な場所・形を試みることで、地域の特徴を活かす。将来、運営主体を市民に移行し、サイエンスカフェを地域社会の文化の一つにすることを目標とする。話題が拡散させず議論を深めるためにファシリテータの力量が問われる、参加者の年齢層をどう広げるか、学生の参画が少ない等の課題がある。

また、地域社会や市民の科学技術の課題に対して大学やNPOが相談に乗り、調査・研究を

行ったり助言したりして、専門知識を活かして、説明や解決を支援するサイエンスショップや、インターネット上の仮想世界でアバターと呼ばれる自分の分身とチャット機能を使って、サイエンスカフェを開催するセカンドライフ等の紹介もあった。

予定時間を延長して、多くの興味深い観点からのお話がありました。講演が終わった後も活発に議論が行われ、大変有意義な時間となりました。

参加者：

教員：4名

博士学生：7名

修士学生：2名

